

## 偉人の足跡

清武町

まついごろうべえ  
松井五郎兵衛

(1571—1657年)

江戸時代前期、清武川から宮崎市赤江・恒久地区へ流れる用水路を整備し、農民生活の救済と藩の発展に尽力した。現在も農業や防災に欠かせず「松井用水路」として住民に親しまれている。

松井家は代々飢肥藩に仕えた古い家柄。五郎兵衛は一六二四(寛永元)年から、清武郷の地頭を務めた。同地区で、ため池もなく干害に苦しむ農民を目の当たりにし、用水路整備を思い立つ。

参勤交代にお供するなどして情報を収集。満潮時に潮が川をさかのぼる距離を測定し、大淀川より清武川が高いことを確認するなど知恵を絞り、計画を練り上げた。

藩に整備を具申し、最初は断られたが、二度目は命を懸け直訴。ついに

## 先駆けて用水路整備

一六三九(寛永十六)年着工した。清武川上使橋付近にせきを設け取水。村民の協力もあり約一年で完成した。清武町加納から延びる「須田木」と呼ばれた丘陵の岩盤をくぐりぬく難工事もあった。

幕府がかんがいを奨励する七十年ほど前で、全国に先駆けた用水路だった。水は同地区を潤し、水田面積は約二倍に拡大。一七四八(寛延元)年、村民はお堂を建立、五郎兵衛を神として祭った。「松井神社」は現在も宮崎市赤江地区にあり、地元土地改良区は毎年二回、感謝の祭りを続けている。(参考文献・歴史散歩よたけほか)